

経営比較分析表（平成30年度決算）

山形県高島町 公立高島病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上~200床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	9	-	ド透訓	救 臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
23,464	9,305	第1種該当	10:1	

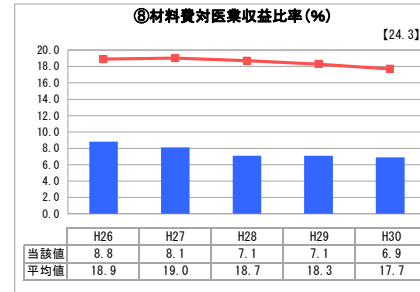
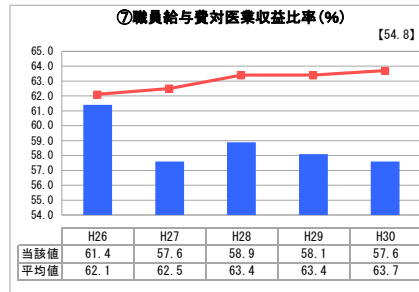
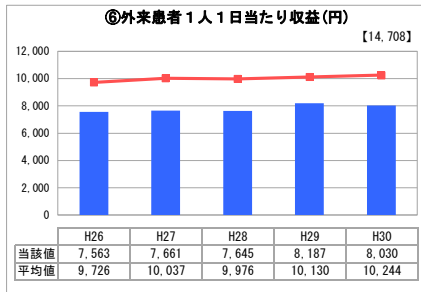
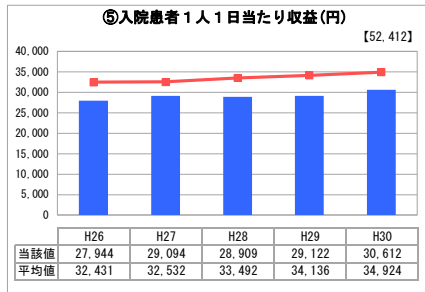
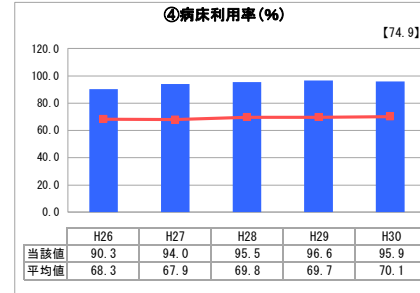
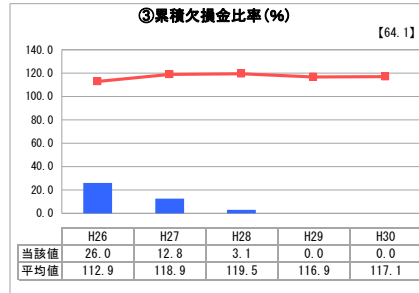
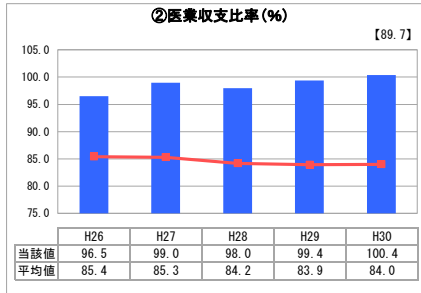
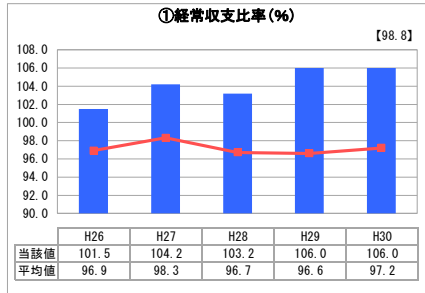
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

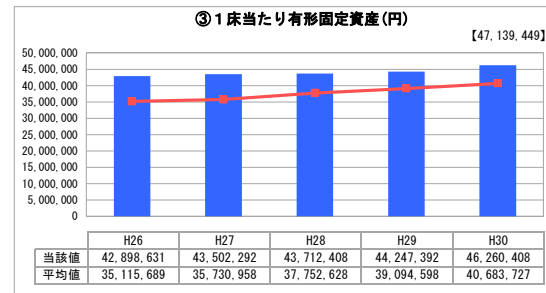
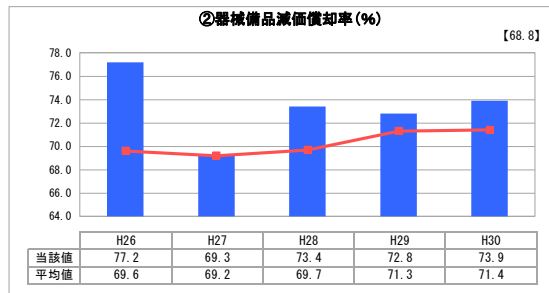
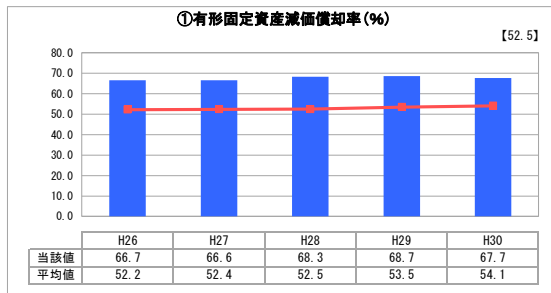
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
89	41	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	130
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
89	41	130

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均	

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

当院は町唯一の病院として、また基幹病院との役割分担を踏まえ、入院医療については、急性期から慢性期までの病床機能を維持し幅広く対応していく。外来医療については、現在の8科体制を維持し、人工透析医療や在宅医療等、町民の求める医療を適切に提供していく。救急医療については採算の是非は問わず今後も堅持していく。さらに町民の健康を守る立場から保健衛生への協力や健診等の予防医療に積極的に取り組んでいく。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

病床利用率については地域包括ケア病棟の導入等により、平成27年度以降毎年高い水準を維持している。
 医療収支比率については、前記の導入により入院収益が増加、外来収益も外来患者の増加により昨年を上回り対前年比1.0%増加し100.4%となった。
 なお、平均値との比較については平成26年度よりそれぞれ上回っている状況となっている。
 累積欠損金比率については平成26年度より安定的な経営を行うことにより毎年減少し平成29年度に解消している。
 職員給与比率及び材料費対医療収益比率については対前年比で減少しており、平均値と比べて大きく改善されている。

2. 老朽化の状況について

当院は平成8年6月に移転新築し、約20年以上が経過しており、医療機器や熱源機器を中心に老朽化が進んできている。このような状況のなか医療機器及び建物等の整備については、年次計画により更新や改修を行うため、有利な補助や経済対策等の資金を積極的に活用し、一般会計からの支援を含め計画的に必要な最小限の範囲で整備していく予定である。

全体総括

平成30年度については新改革プラン3年目にあたる年でプランに掲げた目標達成に向け、限られた職員体制と診療体制の中で質の良い医療を提供するよう努めてきた。
 収益については、病床利用率の高水準維持による入院収益が増加、また外来患者数増に伴い外来収益も増加したことより前年度と比べ増収となり、医療収支比率が100%以上となった。
 費用については給与及び材料費が増加となったが、経常収支比率は100%以上となり5年連続で経常黒字を達成している。次年度も平成26年度以降の安定経営継続に向け更なる努力を行う。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。